

朗読・群読の有効性

段階を踏んだ指導計画

教科書の配列通りに『平家物語』から単元の学習に入り、群読を行うことも可能でした。しかし、その後の『枕草子』と『徒然草』はどうなるのでしょうか。仮に、群読をやったとします。『平家物語』には、達成感や成就感、満足感においてとてもかなわないと思われます。朗読であっても同様です。古典に対する生徒の実態を考慮したとき、やはり学習意欲を第一に考えるべきでしょう。だとすれば、個人朗読、グループ群読、学級群読と、一步、一步段階を踏んでいったほうが、より効果的に生徒の関心や意欲を引き出せるのではないのでしょうか。

段階を踏んだ指導計画を作成し、実践してきたところ、受動的な取組が多かった生徒の様子に変化が見られ、以前よりも活発に意欲的に学習に参加するようになってきました。その結果、学習に対する成就感や満足感を味わうようになり、それが次のステップへと結びついていきました。また、集団の中で自分の意見を主張したり、互いに認め合ったりして、主体的に授業に参加する姿を見ることができました。

学習に適した作品の選定と配列

『徒然草』『枕草子』『平家物語』の3つの作品と、朗読や群読との相性はよかったと考えられます。そのせいか、生徒の学習意欲を喚起し、楽しくわかりやすい授業を展開することができました。また、朗読や群読といった指導法には、自ずと発表という最終目標に位置づけられる活動が付随してくるために、生徒の学習意欲を高め、持続することが可能となりました。

自己の変容を認識させる評価方法の工夫

授業の中に、意図的、計画的に自己評価と相互評価を取り入れてきました。様々な効果が考えられますが、その最たるものが表現力の向上です。自分ではできるようになった、うまくできたなどと、自己の変容を自分自身で確かめられる点がポイントです。自分のがんばりや伸びを認めようという姿勢や互いのよさを認め合い、ともに伸びようという態度が養われてきました。そのための自己評価であり相互評価です。表現力は、一朝一夕につくものではありません。まず必要なのは、表現への関心や意欲です。

朗読・群読を取り入れた成果

- 発音・発声が的確にできるようになり、話すことの向上につながる。
- 自分がいかに表現するかという主体的な目で文章を見るようになる。
- 細かな表現に目がとどき、それを記憶する度合いが強くなる。
- 音声化することで、心の解放につながり、学級が活性化する。
- 分析よりも総合、理解よりも感得と、作品を丸ごと把握するようになる。
- 群読には、生徒の意欲を引き出し、国語科の授業、生徒と教室を活性化させる指導法としての確かな効力がある。